

むかし、世心づける女、いかで心なさけあらむ男にあひえてしがなとおもへど、言ひ出でむもたよりなさに、まことならぬ夢語りをす。子三人を呼びて語りけり。二人の子は、なさけなくいらへてやみぬ。三郎なりける子なむ「よき御男ぞいでこむ」とあはするに、この女気色いとし。「こと人はいとなさけなし。いかでこの在五中将にあはせてしがな」と思ふ心あり、狩しありきけるにいきあひて、道にてむまの口をとりて

1 傍線は読解に役立つ重要語だから辞書で調べる。数字は単なる注釈ではなく読解で意識するポイント。タイトルも段番号も元々は書かれてないので、教科書によって違いがある。

「かうかうなむ思ふ」といひければ、あはれがりて、来て寝にけり。さてのち、男見えざりければ、女、男の家に行きかいまみけるを、男ほのかに見て、

2 この女の行動が端的に描かれているのを想像せよ。

百年に一年たらぬつくも髪われを恋ふらし面影に見ゆとて出でたつ気色を見て、むばらからたちにかゝりて、家に来てうちふせり。³ 男、かの女のせしやうにしのびて立てりて見れば、女なげきて寝ぬとて、

3 女が多少マンガチックに描かれているようだ。

狭席に衣片敷今夜もや恋しき人にあはでのみ寝む

とよみけるを、男あはれと思ひて、その夜は寝にけり。

世の中の例として、思ふをば思ひ、思はぬをば思はぬものを、この人は、思ふをも思はぬをも、けちめ見せぬ心なむ有りける。⁴

4 けちめⅡ区別、差別。このことから在五中将Ⅱ在原業平のどのような姿が描かれているのか考えよう